

令和7年度第3回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：文化芸術による地域づくり～美作三湯芸術温度2025～
- 2 日 時：令和7年10月1日（水）10:00～11:20
- 3 場 所：花の宿 にしき園（美作市湯郷840-1）
- 4 参加者：美作三湯芸術温度のキュレーターや参加アーティスト、温泉地関係者5名

5 知事挨拶

美作三湯芸術温度（以下、芸術温度）への関わりやそれぞれの地域での取組、4回目となる芸術温度を踏まえた今後の県北での取組などについて意見交換を行い、今後の県政を進める上での参考にしたい。有意義な意見交換となるよう、自由闊達な発言をお願いしたい。

6 発言内容等

【自己紹介・活動など】

- ・湯郷温泉がある美作市では観光局が設立され、岡山市から湯郷温泉までのシャトルバスを、奈義町まで延伸させるなど、今後もアートを用いた観光振興を進めていきたい。
- ・2002年から2013年まで、北川フラム氏をプロデューサーに迎え、年賀状デザインの公募、表彰を行うなど、津山市で地域の文化芸術活動を実施してきた。地域とのかかわりを大切にしており、今後もお役に立ちたい。
- ・1年前に西粟倉村へ移住し、子供向けお絵描き教室や、主催イベントを開催している。地域全体をアートで盛り上げていきたい。
- ・芸術温度は4回目を迎え、週末は芸術温度のハンドブックを持って温泉街を歩く人を多く見かけるなど、湯原温泉でも大変浸透していると感じる。また、参加アーティストとは、他事業で作品制作を依頼するなど、繋がりも続いている。
- ・キュレーターとして第1回目から関わっている。今回は、昨年度の森の芸術祭の影響もあり、27か所31人の参加と過去最多となった。来場者には、「小さな旅」として楽しんでもらいたい。

【これまでの美作三湯芸術温度を踏まえた今後について】

- ・当初難しいとされた旅館とアートの融合だが、今となればとても親密な関係が築け、温泉にアートがあることが当たり前になってきた。次回の森の芸術祭期間中に温泉街独自のアート展示を企画してもおもしろいと思う。
- ・当初、旅館での作品展示は難しいと感じたが、前回の展示でも、施設の特徴を活かした作品展示を行うことができた。旅館の協力に感謝する。
- ・旅館など既に出来上がっている空間に展示することは初めてだったが、自分の作

品の作風と展示場所のホテルの雰囲気の相性が良く、良い展示ができたと感謝している。湯郷を訪れ、太田三郎さんの芸術温度作品「鶴亀算」を鑑賞したが、会場内で足温浴をしながら、鶴亀算を計算したあとに、改めて作品をみた時、数学者がよく言う、数式の美しさに似た感覚を得られた。リラックスした空間でアートを感じる空間だからこそ得られる良さを体験できた。

- ・芸術温度の一番の魅力は、「構えなくて良い」ということだ。一回目は、どんな作品が展示されるか不安だったが、キュレーターのマッチングにより旅館に合ったものとなった。作家とも親しみを持って接することができ、こちらから要望を言える間柄にもなった。地域住民が、作家の制作活動に参加する機会も生まれた。
- ・4回目では、緊張感が必要と感じ、13人の新しいアーティストを迎える、安心感と新鮮さのバランスを図っている。
- ・将来的には、参加作家を倍の60人に増やし、1つの施設に複数アーティストに展示してもらい、全国の無名アーティストを発掘したり、国際的に活躍しているアーティストをメインに呼びたい。
- ・制作期間中にアーティストが地域に宿泊し交流が深まったという話を聞き、自分も地域の方ともっと密に交流してみたいと思った。

【今後のアイデア等】

- ・来場者が無料鑑賞できる作品のほかに、宿泊者限定の鑑賞作品を企画できれば宿泊に付加価値がついて良いと思う。
- ・美作三湯が連携していることが良い。三湯で実施し、来場者に回遊してもらうということが重要であり、今後も三湯で続けていきたい。
- ・自分の今回の新作は展示点数が多く、今回の展示場所でなければ生まれなかつた。
- ・展示場所が旅館ということで、調理場からの煙対策として外側を塩化ビニールシートで包む作品を作ったが、表現の幅が広がった。一方、来場者向けの説明機会がないため、アーティストトークや作品鑑賞ツアーなど、作家と来場者が交流できる場があれば良いと思う

7 知事まとめ

温泉地とアートの融合は全国的にも成功例の一つである。芸術温度によってアーティストと温泉地の方々と良い関係性を築けることは非常に素晴らしいことだ。

アーティストインレジデンスは、作家が地域に滞在、交流し作品制作するものだが、交流等によって影響を受け変化し完成した作品は素晴らしい。何かを生み出す際、コミュニケーションは重要で、旅館は滞在型制作に適している。また、若手アーティストへの機会提供として、近隣の美術関係者等を招き、マッチングを企画するのもおもしろい。

アーティストトークは、宿泊客が少ない平日に実施すれば、来場者と作家双方にメリットがあり、各温泉地で少なくとも1回はできるのではないか。